

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2 県土水産資源調査)

道根 淳・石田健次

1. 研究目的

大田市沖合域に分布するエッチュウバイの資源・生態とそれを対象とするばいかご漁業の実態を明らかにし、漁業資源の有効利用を目的とした適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行なう。これにより本資源の維持・増大と漁業経営の安定化を図る。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

解析に用いた資料は、ばいかご漁業漁獲成績報告書と漁獲統計資料(大田市漁協、和江漁協、仁摩町漁協、平田市漁協)各漁業者に記入依頼を行なっている操業野帳である。これらの資料をもとに、漁獲動向、エッチュウバイの価格動向および漁場利用について検討を行なった。

(2) 資源生態調査

大田市漁協、和江漁協ならびに仁摩町漁協に水揚げされる漁獲物の殻長を銘柄別に測定し、この結果と銘柄別漁獲箱数からエッチュウバイの殻長組成を推定した。また、村山ら¹⁾が求めた Age-length Key を用いて漁獲物の年齢組成を求め、漁獲率の推定を行なった。

3. 研究結果

(1) 漁獲動向

石見地区のエッチュウバイの漁獲量は64トン、水揚金額は3,391万円であった。また、1隻当たりの漁獲量は12.8トン、水揚金額は678万円であった(5隻分の集計値)。漁獲物は殻長70~100mmの中・大型貝が中心であるが、前漁期に比べ中・大型貝の漁獲割合が低下した。漁場利用は前年とほぼ同じような状況であったが、一部漁場への集中化が見られた。

(2) 資源状態

漁獲物は3~5歳貝が中心であるが、2、6歳貝の漁獲も多い傾向にある。また漁獲率は44.9%で前年を3%上回った。エッチュウバイの資源状態は、CPUE(1隻当たり漁獲量)の動向から判断して減少傾向にあると推測される。

4. 研究成果

- 調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばい部会の資源管理指針として利用された。
- 平成9年から大田市沖のエッチュウバイを県知事TAC指定魚種に定め、日御碕以西の島根県沖合海域におけるエッチュウバイ資源の保存及び管理計画を策定した(平成13年廃止)。

5. 文 献

- 1) 村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書(平成4年度), 64-69(1991)。